

■ 書 評 ■

〈アクチュアル脳・神経疾患の臨床〉 すべてがわかる ALS・運動ニューロン疾患

祖父江元●専門編集

辻 省次●総編集

北海道大学名誉教授／北祐会神経内科病院顧問 田代邦雄

このたび、『すべてがわかる ALS・運動ニューロン疾患』と題する書籍が出版された。難病が多い神経疾患，その中でも“難病中の難病”である本疾患に対し，タイトルで“すべてがわかる”と言及されている如く，この領域のトップ・リーダで専門編集者である祖父江元名古屋大学教授が，本邦におけるエキスパートを網羅し，本文総計 370 ページにわたる単行本を完成されたことにに対し，まず心からなる敬意を表する次第である。

その内容は，Ⅰ章「運動系の構造と機能」に始まり，Ⅱ章以降は「臨床像と診断」「関連運動ニューロン疾患」「病態関連遺伝子と遺伝子変異」「病態」，そしてⅥ章の「治療と介護」に至り，さらに最後には興味ある Case Study 5 症例を呈示，Lecture として解説するという構成となっている。

各章内の記載は，そのテーマごとにまず主要論点を薄黄色の下地に Point として呈示，つづいて鮮明な図表を交えて簡潔・明瞭な解説，そして必須文献を付し，さらに欄外に Key words, Memo を配する本シリーズで用いられている構成で，読者の理解がさらに深まるよう配慮されている。

本書の企画，そして執筆者の人選も含めた重要ポイントについては祖

父江先生の序文に簡潔明瞭，しかも実に見事に網羅，紹介されており，また，その期待に応えて我が国の頭脳が結集して作り上げた ALS・運動ニューロン疾患の現時点での最高の著書，むしろ“バイブル”とも称することのできるものであり，これらをベースとして今後さらなる発展を目指す心意気も伝わってくるのである。

各章ごとの個々の内容について触れることはできないが，ALS の臨床ならびに研究は世界レベル，そして共同作業にも繋がり，一方，歴史的には「神経学の父」とされる Charcot (1825-1893) まで遡る。また重要な診断基準の策定の歴史は，1990 年 5 月，世界中の ALS の権威が WFN の招請でスペインの El Escorial に集合，1994 年に El Escorial WFN 基準として発表，その後 1998 年に米国 Virginia 州 Airlie House で検討・策定したのが「改訂 El Escorial 基準 (Airlie House 基準)」である。さらに 2006 年横浜で開催の第 17 回 ALS/MND 国際シンポジウムの後に専門家が淡路島に集合し電気生理学的手段を取り入れた「Awaji 基準」を提唱したことも画期的な出来事で，日本の貢献大なることが示されたのである。薬物治療についての大きな進歩は残念ながら達成できていないが，米国での治療の現状はコロンビ



ア大学の三本博先生より，また日本からは患者ケア，リハビリ，災害対策も含めての詳しい解説もなされている。

本疾患の世界的専門誌は 1999 年に “Amyotrophic Lateral Sclerosis and other motor neuron disease” として発刊され，その後 “Amyotrophic Lateral Sclerosis”，そして 2013 年より誌名を “Amyotrophic Lateral Sclerosis and Frontotemporal Degeneration” へと発展的に変更している。その理由・経緯についても，現在この専門誌の Editorial Board に名を連ねておられる祖父江先生が簡潔に本書の序文で触れておられ，本疾患の診断，治療，研究の世界的レベルに日本も参画，かつ着実に実績を積み重ねてきていることを実感，今後さらなる発展を期待しつつ書評の纏めとさせていただきます。

B 5 頁 384 2013 年

定価 12,600 円

(本体 12,000 円 + 税 5 %)

[ISBN978-4-521-73443-9]

中山書店刊